

### 初心運転者の運転意識と実態に関する調査研究（Ⅲ）（平成4年度）

全事故の約12%前後、死亡事故の14%前後が全運転者の6%程度の初心運転者によって起こされている。そこで、平成2年度から3カ年計画で初心運転者の運転意識・態度、運転実態など、車と車社会とのかかわりあいと免許取得後の経過年数と事故・違反について具体的に明らかにし、今後の初心運転者に対する交通安全教育の基礎資料とすることを目的とした。

① 平成2年度に調査した初心運転者の2年経過後の運転意識と態度の変化を追跡調査して比較した結果、その特徴点は、1年未満の初心者に多いのが「物件等」の単独事故で38.4%を占めるが、1年以上の経過年数を有する運転者の事故では27.3%と低くなっている。1年未満の初心者の場合、カーブで30.2%の事故が発生しているが、1年以上の運転者は21.5%である。法令違反の中で、初心運転者は最高速度違反の占める割合が極めて高く、若年者の場合、1年未満の運転者の事故の46.3%が最高速度違反であり、1年以上の運転者は36.8%と低い。初心運転者の事故直前の速度は高く、24歳以下の若年層で見ると、1年未満が平均66.85 km/hで、1年以上では61.17 km/hである。

② 第1当事者が死亡するケースは若年の初心運転者に多く、24歳以下では、1年未満の第1当事者が死亡した事故は38.2%である。初心運転者の事故は状況判断の誤りが64.1%を占め、1年以上の運転者の事故の51.9%より12ポイントも高い。死亡事故率で見ると、運転経験3年以上の運転者が1.4%に対して、1年未満は1.7%、2年未満で1.6%と高い数値を示している。

③ 事故違反のある者の方が攻撃性が強く、遵法性が低い。運転時の緊張度が弱く、依存性が低い(図)。運転への価値傾斜が強くなっている。また、自分は運転がうまいと思っており、判断・意志決定の迷いが少ない。しかし、情報収集でのミスが多い。

④ ヒヤリ・ハット体験がある群は攻撃性が強く、免許取得後でも、3年程度の運転経験を経た後も同程度のヒヤリ・ハット体験をしている。遵法性が低いドライバーほど、また、運転への価値傾斜が強いほど多くのヒヤリ・ハット体験をしている。ヒヤリ・ハット体験を持つドライバーの方が歩行者保護意識が弱い、運転に自信をもっている。

⑤ 攻撃性が高いほど、遵法性が低いほど、情報収集ミスが多い。一般走行技術に自信をもっているドライバーほど運転時の緊張が少なく、遵法性が低く、運転への価値傾斜が高い。攻撃性の高いドライバーほど低速での運転技術に自信をもっている。また、歩行者保護意識が強いドライバーの方が低速での運転技術を高く評価している。

図 事故違反の有無別運転意識の因子得点別分析 (男性) (縦軸1因子 \* 横軸2因子)

